

No. J2319

メコン川中流域の先史時代の農耕
-考古植物学の方法-

熊本大学社会文化科学教育学部
博士後期課程
SINGTHONG Sommay

【研究目的】

- ・メコン川流域の先史時代遺跡について、考古学的発掘のための予備情報を収集する。
- ・Hua Phu 洞窟遺跡を発掘し、先史時代の文化的特徴を理解するとともに、考古植物学的証拠を見つける。
- ・土器圧痕を通して、中部メコン川地域における先史時代の農業の発展に関するより包括的な理解を得るために、穀物栽培の証拠を特定する。

【ヴィエンチャン県の調査】

ヴァンビエン地区のソン川沿いにあるいくつかの先史時代の洞窟遺跡を現地調査の対象とし、考古学的な調査を行った結果、これらの洞窟遺跡の地表から、6カ所の洞窟遺跡のうち3カ所で遺物を発見。

発掘調査により、土器、石器、骨、装飾品を検出したため、これらの3カ所の遺跡のサイトマップを作製。

【ルアンプラバン県の発掘調査】

Hua Phu 洞窟遺跡の第1室で約 90 m² の居住可能な全表面から、合計で約 10.75 m² が発掘された。

発見されたいくつかの遺物：人骨と歯（重量 28.8kg）、土器 2,723 片（重量 22.4 kg）、石器 471 点（重量 9.8kg）、ビーズ 154 点、装飾品 3 点、金属製品/青銅および鉄（重量 0.5kg）、貝殻と炭化物。

【成果】

中部メコン川地域の先史時代の遺跡における現地調査によって重要な成果が得られ、サイトマップや記録の作成による記録保存を実施し、今後の研究を継続するための情報が取りまとめることができた。

土器片の観察からは、穀物栽培に関するさらなる証拠が発見された。これらの成果は、ラオスにおける石器時代と金属期時代の境界に関連する先史時代の農業の復元に貢献するものとなることが期待される。得られたデータは、この地域の古代の農業の実態を理解し、関連する文化や社会の発展についての知見を提供する上で重要な役割を果たすと考えられる。